

Contamination of Environmental Surfaces by *Staphylococcus aureus* in a Dermatological Ward and Its Preventive Measures

Shigeharu OIE, Chikashige YANAGI, Hiroto MATSUI, Tomoko NISHIDA, Masaaki TOMITA, Akira KAMIYA

Biol Pharm Bull., 28, 120~123, 2005

火傷患者に使用されるポリスチレン製スポンジを使用した椅子や担架の表面は高濃度に黄色ブドウ球菌（MRSA及びMSSA）に汚染されていることが明らかとなった。これらのポリスチレン製スポンジの孔内部には、多数の球

菌や桿菌がバイオフィルムを形成し、次亜塩素酸ナトリウムや消毒用エタノールによっても消毒効果が認められなかったことから、多孔性材質のスポンジ製器具は使用すべきでないと考えられた。

BRDC（牛呼吸器病症候群）の概説およびわが国のBRDCにおける *Mannheimia haemolytica*の認識の重要性

富永 潔

臨床獣医, 22(6), 10~14, 2004

肺炎を含む牛の呼吸器病は、様々な病原体が原因で様々な症状を呈する複合感染症の代表的疾病として位置づけられ、現在では牛呼吸器病症候群(Bovine Respiratory Disease Complex, BRDC)と呼ばれている。BRDCにおいて最も重要な病原体と考えられているのが*Pasteurella*属菌で、その中でも特に*Pasteurella multocida*(Pm)と*Mannheimia haemolytica*（以前の*Pasteurella haemolytica*, Mh）が主要な菌種であるが、BRDCにおいてどちらが主要な役割を演じているのかについては、国や地域により考え方は異なっており、主として欧米などの諸外国では以

前からMhを重要視していると考えられる反面、わが国では多くの地域において、BRDCの原因菌としてのMhの認識が極めて少ないか、もしくはほとんど認識されていないかもしれないことは、BRDCを正確に理解する上で問題があると考えられる。本稿では、BRDCに関する一般論に触れた後、BRDCの最終的病型である“肺炎”による死亡例の細菌検査成績と一般的な呼吸器症状発症牛の鼻腔スワブの細菌検査成績を比較することにより、この問題について考察した。